



100th
Anniversary

百年のあゆみ

～ みどりの風 山なみこえて～

富山県立となみ野高等学校

百年のあゆみ

～ みどりの風 山なみこえて～



富山県立となみ野高等学校



100th
Anniversary



百周年によせて

砺波野の会
同窓会会長 上田 良子

私たちの母校富山県立となみ野高等学校が、創立百周年の記念すべき佳節を迎えられたことを同窓生約14,000名と共に心よりお祝い申し上げます。

顧みますと、大正12年4月に開校した富山県立砺波高等女学校は、地元である津沢地域の皆さまの熱い想いと期待により誕生しました。そして、今日までの百年は、時代やニーズに応えるべく、教育内容の充実に加え、学びの仕組みやカタチを果敢に変革してきた本校の歴史である一方で、今も変わらず清らかに流れる小矢部川のように母校が今日まで存在していることに、私たち同窓生は、この上ない喜びを感じると共に、ご努力をくださっている学校関係者、先生方、つないでくれる後輩の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。

数年前になりますが、同窓会の記録を残すことを目的に、高等女学校、津沢高校の卒業生6名の方にお集まり頂き、校長室にて座談会が行われました。大切な青春時代を戦火の中過ごされた八十年代後半の先輩方のお話は、聞いているだけでも辛く、胸を締め付けられるものでした。学校の運動場や空き地を畑にし、さつま芋や野菜を植えたこと、砺波高女愛国子女団が結成されていたこと、勤労働員のため学校ではなく工場に出勤していたことなど…。しかし、話をされている先輩方は最後に口を揃えて「あの時代は大変だった。でも私たちは友達と楽しく過ごせたと思う」と笑いながら凛として語ってくださいました。私は、この言葉をお聞きし、この方々と同じ母校で学んだ者として、私たちはこれからも母校を愛し、しっかりとつないでいく役割があることを痛感したものです。

101年目を新たなスタートとしてとなみ野高等学校のさらなる発展を願い、同窓会員一同、微力ながらお支えして行きたいと思っております。



創立100周年を祝して

富山県立となみ野高等学校
教育振興会会長 篠岡 貞郎

富山県立となみ野高等学校が創立100周年を迎えるにあたり、教育振興会を代表して心からお祝い申し上げます。同窓生の皆様、在校生、教職員の方々のお喜びはいかばかりかと推察申し上げます。

さて、本校は大正12年4月に、砺波地区の女子中等教育機関として時代の要請と地域の皆様の熱い熱意と献身的な協力により、県内で4番目の高等女学校として創立されて以来、地域における女子教育の中核と発展し、学制改革など幾多の変遷を経してきました。最も新しくは平成13年に定時制単位制の学校として、また生涯学習校の砺波地区センターとしてスタートし、以来20年あまりの月日を経て今日を迎えるに至っています。

社会の変化のスピードはこれまでになく速く、国際化、情報化がめまぐるしく進んでいます。また、少子高齢化が進行する中で、学校の在り方も変化を余儀なくされています。しかし、そうした中であっても、地域社会における青少年の学びと育成の場である学校の存在は、活力ある社会を形成していく上で大きな役割を果たしていることはこれまでと何ら変わるものではありません。教育振興会の役割は地域社会における学校の教育活動を支援し、若者たちの成長を見守ることにあります。定時制単位制に学ぶ生徒は一層多様化し、個に応じた指導や授業のユニバーサルデザイン化など学びの在り方も多様化する中で、教育振興会の役割もますますその必要性が高まっていくものと考えております。

高校生という時期は、自我の涵養を図っていく上で非常に大きな意味を持ち、心身ともに大人へと成長する時期にあります。貴重な時期をとなみ野高等学校で過ごしたことが皆さんの将来を支えていく力となることを切に祈っております。積み重ねてきた歴史と伝統から、さらなる「発見」「挑戦」「創造」へ。生徒の皆さんは100年の歴史に守られながら、自分の可能性を信じ様々な「発見」「挑戦」「創造」を重ねていってほしいと思います。そして平和で力強い社会の形成に貢献してくれることを期待しています。

おわりに、これまでの本校の100年の歩みにご尽力いただいた代々の先人に深く感謝申し上げ、お祝いの言葉といたします。



創立100周年を祝して

富山県立となみ野高等学校
PTA会長 地守 誠

富山県立となみ野高等学校が、創立100周年を迎えますこと心よりお慶び申し上げます。

このような大きな節目の年にPTA会長として活動を共にできることに大きな喜びを感じるとともに、その重責に身が引きしまる思いです。

となみ野高校は大正12年4月に砺波高等女学校として開校し、時代の流れに沿って改変を重ね、平成13年に現在のとなみ野高校となりました。

自分らしくたくましく未来を拓き社会で輝く人材の育成を目指すグランドデザインを基本に、『ひとりひとりちがっていい』と個性を重視した学校の校風もあり、のびのびと青春を謳歌する生徒たちを学校に訪ねるたび目の当たりにし、保護者の一人としてうれしく思います。生徒一人一人が個性を大切にしながら様々な挑戦を経験する中で、未来へと飛躍する大きな翼を手に入れられることを心から願っています。

そして、その個性をもった生徒たちを支えるため、家庭と学校をどうつなぎサポートできるか、PTAとして、また一人の保護者として微力ながら何が出来るかを試行錯誤していきたくと考えています。

保護者の皆様はじめ、本校の発展に御尽力いただいている皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援をお願いします。そして100年の伝統を受け継ぎ現在へとつないでこられた同窓生の皆様へ感謝を申し上げるとともに、未来へとつないでいく在校生の皆様のご活躍をお祈りし、100周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



百周年記念誌 発刊に寄せて

富山県立となみ野高等学校
校長 吉國 陽子

この度、富山県立となみ野高等学校の百周年記念事業として、記念誌を刊行できますことは、誠に大きな喜びであります。

今から百年前の大正12年、ここ津沢の地に一粒の種が播かれました。時はまさに大正後期における中等教育、高等教育への熱望が全国的に高まった時期であり、地域の皆様のご支援を受け、富山県立砺波高等女学校としてその歩みを始めました。昭和23年4月、学制改革により富山県立砺波女子高等学校と改称し、7月に定時制水島分校が設置され、9月には男女共学の富山県立津沢高等学校となりました。昭和30年には富山県立砺波女子高等学校と再び改称され、昭和から平成へとその歩みは46年間続きました。平成13年に高校再編計画により、富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センターを併設した定時制・単位制の富山県立となみ野高等学校が開校され、今日に至ります。

振り返れば、校名や体制は時代の要請とともに変化してきましたが、学びたいと願う若者たちのために、また学び続けたいと願う社会人の方々のために、広く学ぶ機会を提供し続けてきた学び舎であることに変わりはありません。百年間この津沢の地にあって、連綿たる伝統の中で良い校風と気風を培ってこられたのも、ひとえに卒業生の皆様、地域の方々、関係各位のおかげであると心から感謝申し上げます。

生徒の皆さんは、本校の校訓「発見・挑戦・創造」を胸に、「ひとりひとりちがっていい」自分を再発見し、目標に向かって日々挑戦を重ね、次の時代を創造する人になってほしいと願います。百周年を機に、伝統の重みに改めて身を引き締め、未来へと向かう決意を新たにしなければなりません。校訓になぞらえるならば、よき伝統から発見し、日々挑戦を繰り返すことが、百年の先へと続く本校の創造につながると確信します。

結びに、日頃より本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただいている砺波野の会の皆様、保護者の皆様、ならびに地域の方々に感謝申し上げますとともに、今後とも本校への変変わぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。記念誌発刊のご挨拶といたします。



旧校舎 正面玄関



現校舎 正面玄関

伝統と歴史



砺波高等女学校



津沢高校



砺波女子高校

富山県立砺波高等女学校
富山県立津沢高等学校
富山県立砺波女子高等学校



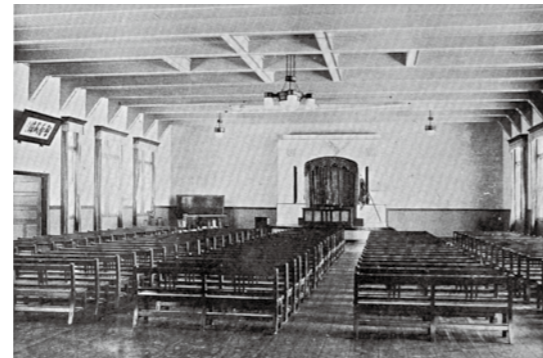
一女子の中等教育のために一

【創校のころ】

- 1922年(大正11年)
 - 3月31日 文部省より県立砺波高等女学校設置認可
- 1923年(大正12年)
 - 4月1日 津沢尋常高等小学校校舎の一部を借用し、開校
 - 4月5日 第1回入学式挙行
- 1924年(大正13年)
 - 4月 本館一部竣工につき移転
 - 10月 本館増築並びに雨天体操場竣工
- 1925年(大正14年)
 - 10月29日 開校祝賀式
- 1926年(大正15年)
 - 校歌制定
- 1927年(昭和2年)
 - 3月 第1回生卒業
- 1929年(昭和4年)
 - 10月 講堂竣工
 - 12月 正門ならびに入口橋竣工
- 1933年(昭和8年)
 - 6月 国旗掲揚塔・創校10周年記念プール竣工
 - 7月7日 創校10周年記念式典挙行



開校記念写真



格調高い講堂



早縫い競技会風景



津沢小学校仮寓時代



愛国子女団

軍国主義色が急速に強まり、女学校教育もいやおうなしに軍国色を強くしていった。国民精神総動員運動が開始され、砺波高女愛国子女団が結成された。



砺高女鼓笛隊(昭和20年)



奉仕の一日(昭和14年)

【戦中・戦後】

- 1935年(昭和10年)
 - 3月6日 愛国子女団結成式
- 1944年(昭和19年)
 - 勤労働員のため上級生は学校を休み、富山不二越金属工場等に出動
- 1945年(昭和20年)
 - 8月1日 富山空襲のため勤労働員不二越挺身隊の生徒避難
 - 8月15日 終戦により工場動員解散
 - 9月1日 第2学期より平常授業開始
- 1946年(昭和21年)
 - 4月1日 研究科付設
- 1946年(昭和22年)
 - 4月1日 専攻科設置
新制中学校併設
- 1948年(昭和23年)
 - 4月1日 学制改革により富山県立砺波女子高等学校と改称



真心を込めて慰問袋の製作(昭和14年)



戦後初の運動会 1946年(昭和21年)

生徒誓詞

一、聖旨ヲ奉戴シテ忠孝ノ大道ヲ全ウセン
 一、婦徳ヲ研修シ學業ニ精励セン
 一、思慮ヲ精確ニシ言語ヲ明瞭ニセン
 一、趣味ヲ高尚ニシ情操ヲ円満ニセン
 一、運動ヲ適良ニシ動作ヲ敏活ニセン

行事ごとに誓詞を奉唱し、学業にはげむのが、当時の生徒のつとめであった。

開校式の歌

砺波の山にうららけき
 秋の日照りて百鳥のと
 おつみやがうえにける
 我が学び舎はなりにけり

小矢部の流れ音冴えて
 万里の御空月清く
 あまそそり立つ高殿は
 まこと久遠の姿なり

ああ喜びよ喜びよ
 知恵のまいずみあふれきて
 心のみのりつくるなき
 我が学び舎は建ちにけり

(大正十三年秋)

県立砺波高等女学校校歌

一 学の窓の朝夕に
 医王の大嶺仰ぎ見れば
 心おのずから高きかな

二 学の暇のをりくくに
 小矢部の流眺めやれば
 心おのずから清きかな

三 学の友と交じらひの
 うれしさ楽しさ身にあふる、
 思もろともに歌ふなり

(大正十五年制定)

芳賀 矢一 作詞
 岡野 貞一 作曲

—新しい女子教育を目指して—

【1955年～】

- 1955年(昭和30年)
4月1日 4月1日 再び砺波女子高等学校と改称
- 1956年(昭和31年)
7月 「砺女高新聞」の発刊
- 1957年(昭和32年)
2月16日 作家 幸田 文氏 講演
- 1958年(昭和33年)
1月 温汁給食開始(PTAと生徒)
- 1959年(昭和34年)
3月 生徒会誌「さわらび」発刊
9月1日 校歌制定
12月 制服をブレザー型に改定
- 1960年(昭和35年)
10月25日 加藤長作氏の寄付により
学校林(325坪)設置
- 1961年(昭和36年)
3月 定時制家庭課程募集停止
- 1962年(昭和37年)
12月1日 創立40周年・定時制10周年
記念式典挙行



砺波女子高校のはじまり

一、よき校風をうち樹てよう

一、健康な女性を育てよう

一、聡明な女性を育てよう

教育目標

実践 健康 聡明

教育目標

実践への勇氣こそが聡明で健康な人をつくる原動力といえど、昭和42年に一部改正される。

昭和 32 年

昭和30～40年代の様子



青空教室

運動会

ブレザー型の制服

茶道

華道同好会

冬の通学路



進む学科再編成

本校では、早くから家庭科に関する学科に変化が見られ、昭和38年には家庭科及び被服科を家政科と改称する。

また、家庭科では、家庭クラブ活動や技術検定が盛んになり、生徒はホームプロジェクトや被服・食物の検定をめざして頑張った。家庭クラブは、昭和50年頃から福祉施設訪問を行い、後に生徒会と協力したボランティア委員会が設置される。



検定にむけて

福祉の時代のはじまり 県内初「福祉」科目の設置

「特色ある学校づくり」の一環として、家政科では昭和61年4月から全国でも数少ない「福祉」科目が設置された。同時に高度情報化社会に対する消費生活の考え方や対応できる力を育てることを目標に「消費生活」科目が、導入された。

また、平成5年には家政科に県内初の福祉コースが設置され、平成8年には、家政科が生活福祉科と改称された。



保育実習



老人ホーム実習

介護実習

【1972年～】

- 1972年(昭和47年)
9月15日 (加越線廃止に伴い)
女子高前バス停設置
- 1973年(昭和48年)
6月10日 創立50周年記念式典挙行
8月 中庭造園完成(同窓会寄贈)
- 1974年(昭和49年)
6月8日 新校舎落成式挙行
- 1975年(昭和50年)
10月 所在地の表示が「小矢部市清水95番地」に変更
- 1977年(昭和52年)
4月 県緑化推進コンクールで推進校として受賞

加越線の廃止(昭和47年9月15日)



生徒の約半数が利用した津沢駅



昭和60年改定の夏服で全国へ(放送部)

ゆとりのある学校生活・個性重視の進路指導

昭和45年の学習指導要領の全面改訂では、「ゆとり」が眼目で、教科以外の教育活動として48年度から「クラブ活動」週1時間が必修とされた。本校では、部活動にはないフォークダンス、人形劇、孔版印刷、ハンドクラフトなどのユニークな必修クラブも作られた。

また、54年の再改訂での二本柱は、「ゆとりのある充実した学校生活や勤労体験の重視」、「特色ある学校づくりと生徒の個性・能力に応じた教育の推進」であった。昭和57年度の特設時間(ゆとりの時間)は、「学習コース」、「勤労体験コース」の他、ホームプロジェクトや音楽・創作ダンス発表会などの特別行事に当てられた。

卒業生の進路状況(昭和57年3月)

	進学			就職	家事
	大学	短大	専修学校 各種学校		
普通科	3	27	32(+2)	23	2
家政科	0	21(+1)	16(+5)	46	1
計	3	48(+1)	48(+7)	69	3

()内は、就職進学者数



県立砺波女子高等学校校歌

尾島庄太郎 作詞
大 中 寅二 作曲

一、流は清く 水音さえて

小矢部川 岸辺に立てば

晴るる朝空 オリオン白し

新しき きよの心に

道ひとすじに 光あおぎて

ともに 歌わん けだかき理想を

二、百鳥鳴ける 学びの園の

濃みどりにしげれる 木かげ

手を取り集う 幸あるわれら

白雪に きらめく夢の

紅き蕾と ここに開きて

三、白雲遠き アルプスの空

砺波野に かがやく稲穂

医王の峰は ほほえみかくる

見はるかす 自然はうれし

進む時代の 伸びゆくまに

ともに 育てん 心ののりを

(昭和三十四年九月一日制定)

【1982年～】

- 1982年(昭和57年)
10月23日 創立60周年記念式典挙行
- 1983年(昭和58年)
4月 ボランティア委員会の設置
- 1992年(平成4年)
10月31日 創立70周年記念式典挙行
- 1993年(平成5年)
4月 制服改定
- 1994年(平成6年)
7月 全国高校総体富山県開催
8月 韓国へ修学旅行

全国高校総体に一人一役で参加

弓道部1名が選手として出場し、総合開会式の合唱隊、記念品の製作、プランターの水やり、垂れ幕作り、クリーン作戦等に全校生徒が参加した。



輝かしい部活動・クラブ活動

どの活動も積極的な取り組みが見られ、昭和30～40年代には、音楽、水泳、陸上競技、卓球、庭球部、合唱クラブ、スキー等が県で優勝し、定時制ソフトボール部は北陸4県大会(新潟県含む)で優勝した。さらに50年代では、伝統ある陸上競技部の県大会5連覇をはじめ、水泳部の3連覇や新体操部の2連覇など、県大会で連続優勝を果たした。バスケットボール部の優勝もこの頃である。60年頃から平成にかけては、放送、書道、琴、なぎなた、弓道、詩吟、美術、新聞、弁論などの全国大会、演劇の中部大会出場など、文化部の活躍が目立った。

嬉しいときは、肩を抱き合って喜び、
悲しいときは、肩をたたき合って励まし
あっていました。

そのたびにみんなは、私の喜びを倍
にしてくれ、私の悲しみを半分してく
れました。

【70年のあゆみ-部活動-】より抜粋



修学旅行が海外へ ～県内初の韓国行き～



姉妹校の舞鶴女子高校を訪問



校内にバス停

平成10年(12/1～3/31)には、校内にバス停が設置された。



津沢駅停留所から登校

《部活動》

放送、新聞、音楽、琴、ワープロ、美術、演劇、書道、茶道、華道、陸上競技、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ソフトボール、卓球、ソフトテニス、ホッケー、弓道、なぎなた、ボランティア

—平成12年度—

《3年生・思い出行事 ベスト10》

- 1 修学旅行 or 共同宿泊学習(五箇山)
- 2 体育大会
- 3 球技大会
- 4 マラソン大会
- 5 創作ダンス発表会
- 6 予せん会
- 7 文化祭 or 文化発表会
- 8 スキー研修会
- 9 春の徒歩散歩
- 10 秋のバス遠足
(昭和61年「さわらび」より)



立山登山



体育大会



手話で合唱



文化発表会は3年に1度、文化祭として開催

【1996年～】

- 1996年(平成8年)
4月 家政科を生活福祉科と改称
- 1999年(平成11年)
6月 家庭クラブ、環境庁の水環境賞受賞
「砺波女子高校の明日を考える会」発足
- 2000年(平成12年)
3月 普通科募集停止 食堂廃止
- 2001年(平成13年)
3月 生活福祉科募集停止
- 2002年(平成14年)
3月 寄宿舍 閉舎
11月1日 80周年記念式典挙行
- 2003年(平成15年)
3月 砺波女子高校生最後の卒業式
3月 砺波女子高等学校の閉校

20年後のわたしへ ～メッセージ～

平成12年10月28日

砺女高最後の文化祭2日目に、全校生徒が書いたメッセージを入れたタイムカプセルを埋設した。



タイムカプセルを手に生徒代表の挨拶

砺波女子高等学校からとなみ野高等学校へ

平成13年4月、となみ野高等学校(定時制単位制高校)が開校し、2つの学校の生徒たちが、同じ校舎で学び学校行事をともした。



創立80周年記念式典(平成14年) 喜びのこぼるを述べる2人の生徒会長



平成15年3月4日の閉校式には、高本校長から「健康と文化を愛する地域に育った精神は受け継がれると信じています。」と式辞があった。



砺波女子高校の募集停止に伴い、平成14年3月、約40年の寄宿舍の歴史に幕を下ろした。

記念事業

- ◆10周年 1933年(昭和8年) プール竣工
- ◆20周年 戦時中のため、行われず
- ◆30周年 1953年(昭和28年) 国旗掲揚塔、橋梁、欄干、茶室(山ワ建設工業(株)寄付) 竣工
- ◆40周年(定時制10周年) 1962年(昭和37年) 体育館落成



プール完成(10周年)



記念絵葉書

10周年記念祝歌(昭和8年)

作詞 河合政則・作曲 景浦(沼崎)花

琴の調の松風に	空にかがやく日のもとの
小矢部の瀬音に通い来て	御代の光に広庭の
眺めの妙なる学び舎に	松の翠も色そえて
星は移りて	栄えある今日を
はや十年	祝うなり

●創立10周年

1933年(昭和8年)7月7日、創立10周年記念式典が挙行された。引き続き、同窓会・校友会の醸金(きょきん)によって新設された水泳プールの披露式が行われ、祝歌が合唱された。

「当時、このプールは呉西中等学校中の一異彩を放つものであった。式後、生徒の競泳模範演技の披露が行われた。」 (八十年史より 抜粋)

●創立30周年



茶室「清暉庵」完成(30周年)



橋梁と欄干(30周年)



記念式典

昭和28年11月7日創校30周年記念式・同窓会物故者追悼式がおごそかに行われた。

●創立40周年

1962年(昭和37年)12月1日、新装なった体育館で40周年記念式典が挙行された。式典には来賓、生徒、同窓生、父母、教職員、在校生ら約1000人が出席した。

「記念事業として永年悲願の体育館が新設された。県下で初のP・D鉄筋構造で純粋な女子向けの体育館であった。総額2千万円の建設資金の三分の一を募金でまかなった。」

(八十年史より抜粋)



完成した体育館(40周年)

- ◆50周年 1973年(昭和48年) 中庭造園、記念モニュメント(作 永原 廣)
- ◆60周年 1982年(昭和57年) トレーニングハウス竣工
- ◆70周年 1992年(平成4年) 校門新設、前庭整備(茶室前庭も含む)
- ◆80周年 2002年(平成14年) 『八十年史』発刊

●創立50周年

1973年(昭和48年)6月10日、創立50周年記念式典が講堂で催された。同窓会では創立50周年を記念して中庭の造園を行った。その趣意書には「砺波高等女学校以来の伝統の美風を生かすためにも、美しい環境づくりに奉仕する・・・かつて私共が集うた校庭の緑の木々を生かし、芝生を植え池を掘り、そこに格調高いモニュマンをつくり上げたいと思うのであります。」とある。

(八十年史より 抜粋)



完成間もないころの中庭(50周年)



記念モニュメント(50周年)

●創立60周年

1982年(昭和57年)10月23日、創立60周年式典が挙行された。記念事業としてトレーニングハウスが建設された。トランポリンやテンセパレートマシン、ダンスパーなどを取り揃えた近代的な施設は県下でも珍しく見学者も多かった。



トレーニングハウス(60周年)



新たに設置された校門(70周年)



前庭整備後の茶室(70周年)

●創立70周年

1992年(平成4年)10月31日、創立70周年を記念して正面入口土間整備と新しい門柱が建設され、同時に茶室付近の前庭が整備され完成した。記念講演として落語家立川志の輔氏が「笑われる理由」と題し、自分の経験をユーモアを交えて話された。



式典 2002年(平成14年)11月1日



記念誌表紙(80周年)

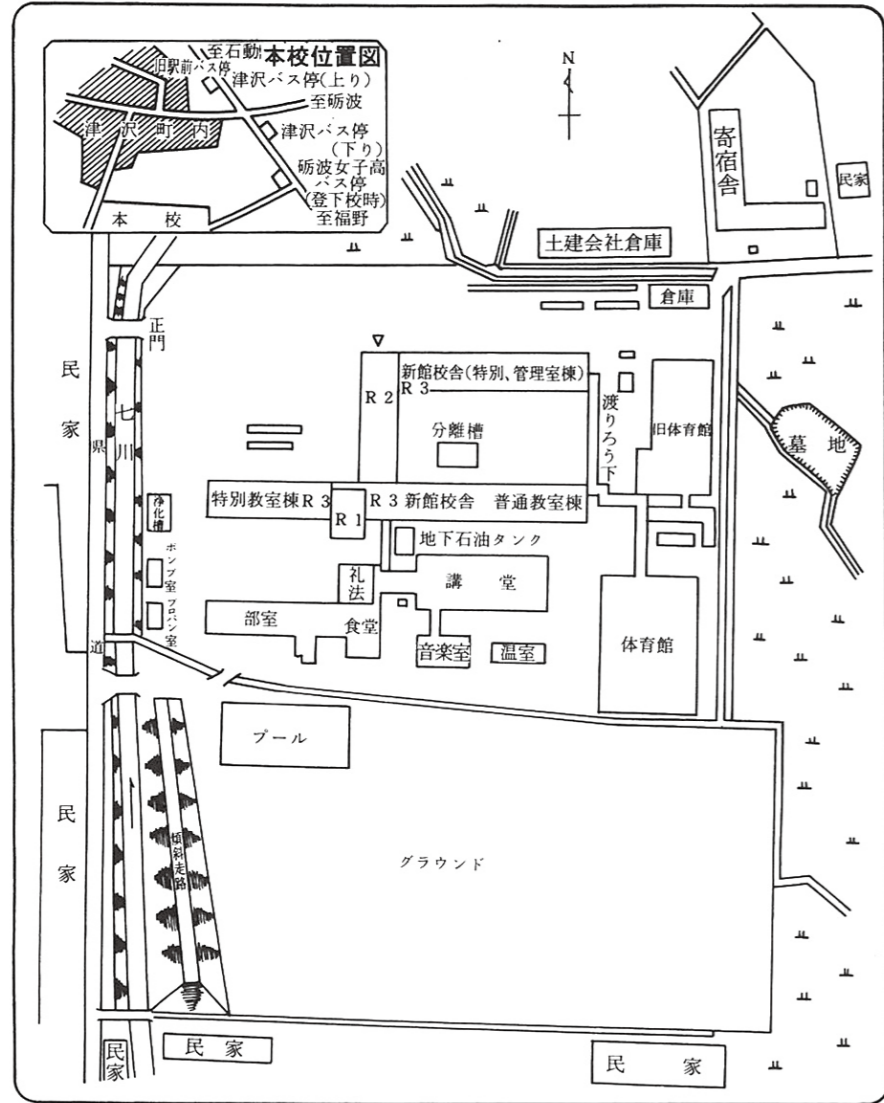
●創立80周年

2002年(平成14年)11月1日、創立80周年式典が挙行された。

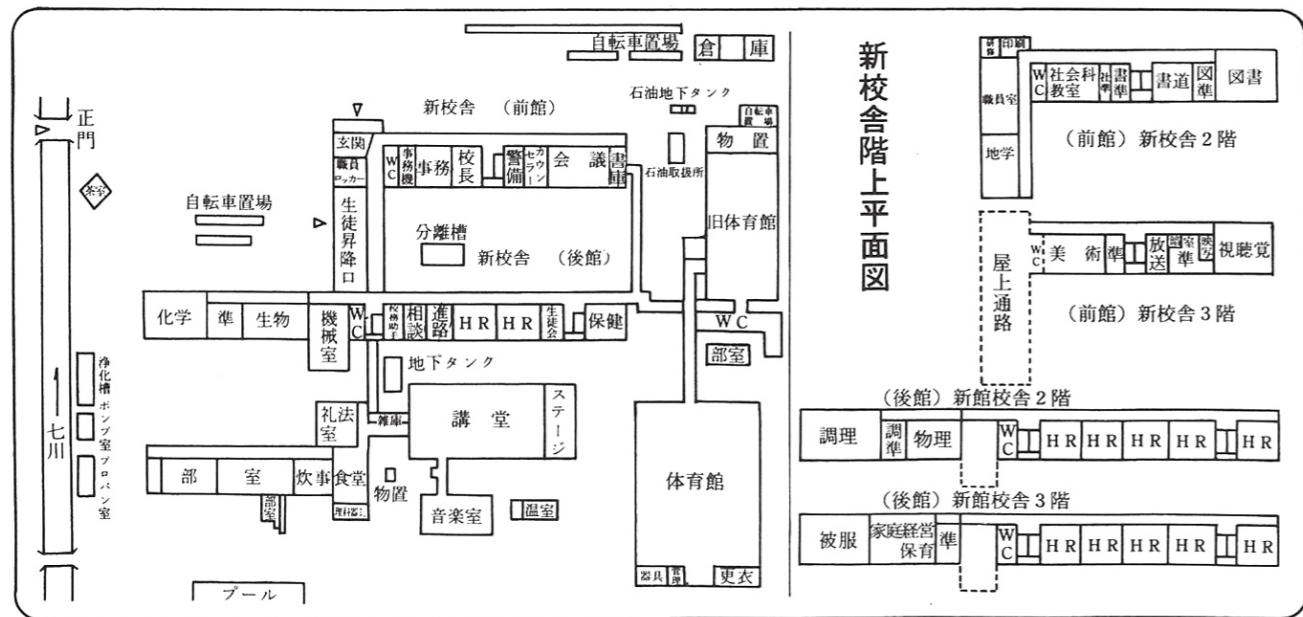
記念式典では、高女、砺女、となみ野の校歌が校旗とともに披露された。

富山県立砺波女子高等学校平面図

校地・校舎・寄宿舎見取図



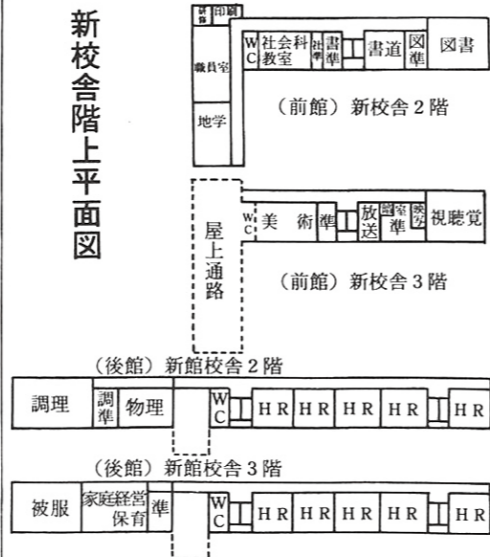
校舎平面図



寄宿舎平面図



新校舎階上平面図



新しい時代とともに

定時制単位制高校へ



富山県立となみ野高等学校



となみ野高等学校開校

2000年(平成12年)3月に県教育委員会は砺波女子高校普通科の募集を停止した。同時に、「高校教育に対する多様なニーズに応え、学ぶ意欲のあるすべての人に、いつでも門戸が開かれている学校を設置する」という方針を発表し、2001年(平成13年)4月にとなみ野高校が開校した。



開校・開設(4月1日)



第1回入学式(4月9日)



となみ野高校校旗披露



砺波女子高校生徒との対面式



開校式・入学式次第

4月9日午後2時より開校式・入学式が、同窓会・砺波女子PTA・地元有志・関係中学校等多数の来賓出席のもとに行われ、県教育委員会教育委員長 八木 近直 氏が開校・開設の祝辞を述べられた。

入学式に先立って、校旗が砺波女子高校生徒会執行部の手で校長に手渡され、合唱部によって校歌が披露された。入学式では、普通科I部41名、II部27名、総合福祉科33名の計101名の入学許可があり、校長は式辞で「一人一人が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向って、意欲的な学校生活を送ることができるような援助・指導を行うことを教育目標とした。生徒には『新たな自分の発見』『新たな自分の挑戦』『新たな自分への創造』を求め、校訓を『発見・挑戦・創造』とした」と述べた。

富山県立となみ野高等学校 校章



監修 森 聖
デザイン 高田 立

校章のデザインについて

デザインの基本はイオニアスパイラル(最も基本的な螺旋の描き方で半円を等倍し重ねたもの)で、「発見」「挑戦」「創造」の繰り返しを通して成長していく生徒の営みを象徴している。また、中央のシダ植物のフォルムは、この地方で古くから食用としていたというコゴミ(桜町遺跡からの発見)や豊穡を祈る正月飾りのウラジロを象徴するもので、強い生命力を表している。更に、帆船になぞらえた外観のシルエットには、生徒一人一人が荒波を乗り越えて、それぞれの道に力強く進んで欲しいという願いが込められている。

デザインは、本校の美術教諭 高田 立 氏。監修は、東京造形大学教授 森 聖 氏である。(所属はいずれも当時のもの)

富山県立となみ野高等学校 校歌

校歌

作詞 山本 哲也
作曲 松本 清

一 小矢部の流れ 瀬音もさやか
卯の花山に 花影映えて
山なみこえる みどりの風に
翼ふくらむ 夢もふくらむ

二 流した汗と 流した涙
苦勞の目方 測れないけど
日に日を重ね 実の熟れるころ
つらさを忘れる よろこびは湧く

三 道はそれぞれ 違っていても
芯をつらぬく 一筋の道
照る日曇る日 嵐の日にも
自分を見つめ 歩み始める

作詞者 山本 哲也
作曲者 松本 清

作詞のころ

本校の教育目標である、「発見」「挑戦」「創造」を基本に捉え、そのうえに「となみ野」の自然環境、そのなかで育まれてきた人の心と歴史を重ね合わせた。

一番は、大伴池主の長歌や芭蕉の『奥の細道』にも登場する、越中の歌枕「卯の花山」を題材に、それを吹きこえる青嵐にのせて「夢」への「挑戦」と「希望」を歌詞にしたものである。

二番は、日々の営為のなかで培われる「努力」の尊さと成就の「喜び」を歌詞にしたものである。

三番は、「自己発見」と強固な「意志」に支えられる着実で善良な「歩み」を歌詞にしたものである。

作詞者の山本哲也氏は、富山現代詩人会副会長。松本清氏は、富山大学教育学部教授である。(所属はいずれも当時のもの)

本校の概要

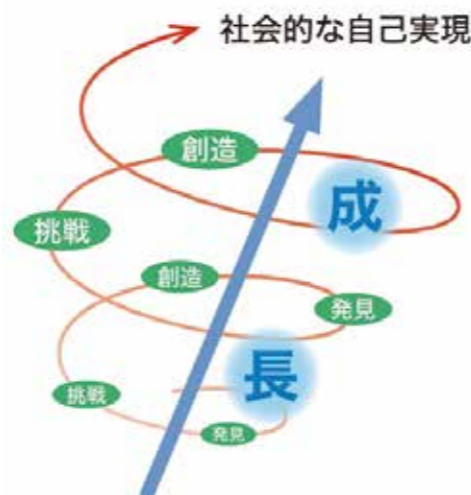
教育目標

一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助・指導を行う。

校訓

- 発見 (新たな自分の発見)
- 挑戦 (新たな自分への挑戦)
- 創造 (新たな自分の創造)

発見、挑戦、創造という体験を積み重ねることによって、将来の社会的な自己実現に向かって着実な歩みを進める。



教育方針

- 1 自分の可能性に気づき、困難に負けないたくましさと自主自律の精神をもって、学び続ける生徒を育てる。
- 2 自他を愛し、多様な個性を認め合い、協働してよりよい社会を創造する情操豊かな生徒を育てる。

教育課程の特色

〈二期制〉

前期 4月1日～9月30日、後期 10月1日～3月31日

〈二部制〉

- ・I部は、1限～4限に授業を展開。希望に応じて5・6限開講の科目を学ぶことができる。
- ・II部は、3限～6限に授業を展開。希望に応じて1・2限開講の科目を学ぶことができる。

※I部 (1限～4限) : 日課表

時限	時間割
1限	8:45 ~ 9:30
2限	9:40 ~ 10:25
3限	10:35 ~ 11:20
4限	11:30 ~ 12:15

※II部 (3限～6限) : 日課表

時限	時間割
3限	10:35 ~ 11:20
4限	11:30 ~ 12:15
5限	13:25 ~ 14:10
6限	14:20 ~ 15:05



研修旅行 (大阪)

〈生徒個々の進路・適性・興味・関心に応じた教育課程〉

74単位以上の修得で卒業可能

必履修科目の履修と本校での8単位以上の修得を含め74単位以上の修得で卒業が可能。

多様な科目

家庭、芸術、商業に関する専門科目を多く展開し、多様な自由選択科目から、興味・関心に応じて学ぶことができる。

自分で選択

多数の科目群から学びたい科目を選択し、自分だけの時間割をつくることができる。

効果的な授業

習熟度別、チーム・ティーチング、少人数、ユニバーサルデザインやICT活用など、わかりやすい授業環境で学ぶことができる。

弾力的な単位認定

先の在籍校での修得単位、高等学校卒業程度認定試験合格科目の単位、ボランティア活動や技能審査の成果等の学校外における学修の単位などを本校の単位に認定できる。

〈社会人と共に学ぶ「共学講座」〉

本校の開講する科目 (一部) は「共学講座」として社会人に公開しており、学びに対する意識を高めることができる。



情報処理



英会話



日本音楽

学科紹介

普通科・昼間単位制I部とII部

- ・大学、短大、各種専修学校などへの進学や就職等、多様な進路希望などに対応した科目を選択して学ぶことができる。
- ・一人一人の興味・関心に応じて、芸術、情報、家庭、福祉などに関する科目について幅広く学ぶことができる。



知っておきたい地理



弓道

例/普通科I部の時間割

	月	火	水	木	金
1	数学I	英語	情報I	英語	言語文化
2		コミュニケーションI		コミュニケーションI	
3	体育	保健	音楽I	現代の国語	総合的な探究の時間 HR
4					
5	(5・6限 開講の授業を受講可)				
6	(5・6限 開講の授業を受講可)				
放課後	部活動・アルバイト など				

例/普通科II部の時間割

	月	火	水	木	金
1	(1・2限 開講の授業を受講可)				
2	(1・2限 開講の授業を受講可)				
3	英語	情報処理	体育	音楽II	総合的な探究の時間 HR
4					
5	歴史総合	数学I	公共	科学と人間生活	保健
6					
放課後	部活動・アルバイト など				

総合福祉科・昼間単位制Ⅰ部

- ・「地域で活躍する介護人材」を目指して、家庭・福祉の授業が進められる。
- ・外部講師によるより専門的な授業を受講することができる。
- ・介護職員初任者研修課程の資格が取得できる。
- ・調理実習や被服実習、介護実習などの実践的・体験的な活動が充実しており、介護スキル向上ができる。



例／総合福祉科の時間割(3年で卒業を目指す)

	月	火	水	木	金
1	介護福祉基礎	体育	科学と人間生活	歴史総合	生活産業基礎
2					
3	情報Ⅰ	生活支援技術	数学Ⅰ	こととからの理解	総合的な探究の時間
4					
5	英語[コミュニケーション]	家庭総合	現代の国語	音楽Ⅰ	保健
6					
放課後	部活動・アルバイト・ボランティア など				

福祉・家庭の専門科目

- めざす資格
- 介護職員初任者研修課程修了
 - 食物調理技術検定2・3・4級
 - 被服製作技術検定4級
 - 社会福祉・介護福祉検定3級

総合福祉科の活動

介護実習&報告会

高齢者福祉施設での実習や、訪問介護員に同行する実習がある。2年間で4～8日間の実習をおこない、実習後は、成果と学びの報告会を実施している。



食物調理・被服製作検定



食物調理検定2級(お弁当)

被服製作検定4級(巾着)

福祉特別講座

「手話」「レクリエーション」「児童支援」「介護食」「点字」など外部講師から学んでいる。また、認知症サポーター養成講座も実施している。



視覚障がい者の理解と点字 認知症 VR 痰の吸引・経管栄養

多彩な授業



1年をかけて調査・研究した成果を校内で発表している。

「りらっくする一む」～癒やしの手～ 2003年(平成15年)～

総合福祉科全生徒がとなみキャンパスフェスティバルに来てくださったお客様に手浴サービスを行っている。生徒たちは緊張しながらも授業で学んだことを生かし、お客様に喜んで頂けるように一生懸命取り組んでいる。



手浴

「となみ野笑劇団」誕生!! 2015年(平成27年)

平成27年度には、これまで続けてきた「食から始める介護予防」の活動をより多くの人に知っていただくため「となみ野笑劇団」を立ち上げた。3年次生が全て準備をし、高齢者役などを演じてとなみキャンパスフェスティバルや小矢部市津沢地区社会福祉協議会での発表など校外での公演を行った。



となみキャンパスフェスティバルでの発表



施設での発表

「総合福祉科 short-movie」作成 2015年(平成27年)～2021年(令和3年)

「介護の日スペシャルCM2015」から始まり次年度からは、「総合福祉科short-movie」を制作した。完成したshort-movieはとなみキャンパスフェスティバルのステージや手浴コーナーで放映し、大変好評であった。今後も様々な方法で介護の日を知っていただくための活動を続けていきたい。



11月11日は「介護の日」



介護実習でのレクリエーション

富山県民生涯学習カレッジ 砺波地区センター

施設概要

富山県民生涯学習カレッジ(通称 県民カレッジ) 砺波地区センターは、平成13年に定時制単位制の「県立となみ野高等学校」に併設された、社会人と高校生が共に学ぶ生涯学習施設である。砺波地区を中心に、生涯学習の情報発信拠点として、学習活動の支援・相談・提供などの学習サービスを行っている。

特色

(1) 砺波地区センター五つの柱

- ① 学びの場 地域に密着した講座(となみ野の歴史・文化・産業など)や社会人に関心の高い講座(健康、パソコン、芸術など)を開講している。
- ② ふれあいの場 学習サロンにて、講座の紹介や学習についての相談に応じている。また、受講者同士のふれあい・情報交換の場となっている。
- ③ 発表の場 日ごろの学習の成果をとなみキャンパスフェスティバルにて発表している。
- ④ 活動の場 県民カレッジの運営を支えるカレッジメイトのボランティア活動や学習発表・学習交流を推進している。
- ⑤ 連携の場 砺波地区広域学習圏、小矢部市・砺波市・南砺市各教育委員会をはじめとする関係機関、砺波地区生涯学習団体協議会、雷鳥会砺波支部との連携を行っている。

(2) それぞれの講座の紹介

① センター主催講座

- ・地域課題学び活かし講座、ふるさと探究講座(平成30年度～令和2年度)
- ・とやま新時代講座(令和3年度)
- ・つながる学びわくわく講座(令和4年度～)
- ・人生100年時代特別講座(令和元年～令和4年度)
- ・ウェルビーイング実現講座(令和5年度)



ふるさととやまのおもしろ科学



となみ野探訪



ふるさとの歴史



地域を支える身体のために



ふるさとを訪ね学ぶ



人生100年時代特別講座

② 共学講座

となみ野高校の授業の一部を「共学講座」として開講し、高校生と共に受講する講座



歌とピアノ



ペン字



弓道教室



情報処理II



素描



土との語り

③ 教養講座

砺波地区3市の教育委員会と連携し、砺波地区生涯学習団体協議会が主催する講座



「富山の本気」を写真で発信!



中流社会の生活難と米騒動



ハープの魅力

(3) その他の活動



自遊塾



砺波地区交流会



カレッジメイト



広域学習サービス連絡会議



となみキャンパスフェスティバル



わくわくシアター



生涯学習団体協議会総会

90周年以降の動き

2013 (平成 25 年)	4月	高校生が社会人と学ぶ「特別講座」を「共学講座」に名称変更	
	8月	全国高等学校総合文化祭(長崎大会) 富山県代表として総合開会式参加 山本 圭佑 全国高等学校定時制通信制体育大会 第48回陸上競技大会 女子800m 第4位 竹部 明日花	
	10月	「創立90周年記念式典」挙行 『90年のあゆみ』発行	
	11月	第61回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 読売新聞社賞 武部 志穂	
2014 (平成 26 年)	3月	体育館下ピロティに教室設置工事完成 (101教室～106教室)	
	4月	授業開設形態として昼間単位制Ⅰ部は「1～4限」 Ⅱ部は「3～6限」に設定	
	8月	校舎(後館普通教室棟)耐震工事竣工	
2015 (平成 27 年)	3月	校舎(後館特別教室棟)耐震工事	
	4月	文部科学省「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」委託	
	8月	全国高等学校定時制通信制体育大会 第50回陸上競技大会 女子円盤投げ 第6位 青島 安香	
	10月	体育館天井落下防止対策工事 第63回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 奨励賞 島樋 夏美	
2016 (平成 28 年)	4月	平成28年度入学生より新校服(校服のデザインを変更)	
	9月	海外修学旅行が「文化学習」として2班(台湾、国内)で実施	
	11月	第64回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 厚生労働省職業能力開発局長賞 山本 実奈	
2017 (平成 29 年)	8月	後館普通教室ホワイトボード整備 全国高等学校定時制通信制体育大会 第52回陸上競技大会 男子400mH 第4位 樋掛 幸浩	

黒板からホワイトボードへ変更

新校服

2018 (平成 30 年)	10月	清暉庵(1953年竣工の前庭茶室)老朽化により解体	
	12月	学校ホームページ刷新	
2019 (平成 31 年・令和元年)	9月	普通教室に プロジェクタを設置	
	9月	普通教室に プロジェクタを設置	
2020 (令和 2 年)	3月	新型コロナウイルス感染症防止のため全国一斉休校 (3月2日～5月22日) 感染症対策のため卒業生・保護者のみで卒業式を挙行 後館トイレ洋式化工事(教室側)	
	4月	新入生は入学式の翌日から休校 「となみ野高校Grandデザイン」制定(リーフレット紹介) 普通教室にエアコン設置	
	5月	下旬より分散登校開始 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した授業環境整備	
	9月	新型コロナウイルス感染症流行のため海外研修旅行の中止	
	9月	新型コロナウイルス感染症流行のため海外研修旅行の中止	
2021 (令和 3 年)	2月	感染症対策事業により普通教室に網戸設置 ピロティ教室ホワイトボード整備	
	3月	体育館トイレ洋式化工事	
	9月	新型コロナウイルス感染症流行のため夏季休業期間を9月12日まで延期 新型コロナウイルス感染症流行のため研修旅行(海外から国内へ変更)中止	
	10月	全校生徒にタブレット貸与	
	12月	旧正門の橋を撤去(老築化し、危険なため) 感染症対策事業によりトイレ手洗水栓を自動化	
2022 (令和 4 年)	4月	となみ野高校スクールポリシーの策定と施行	
	8月	全国高等学校定時制通信制体育大会 第57回陸上競技大会 女子200m 第7位 小西 菜摘	
	9月	研修旅行の復活(国内旅行)	
2023 (令和 5 年)	2月	体育館照明LED化改修工事	
	10月	「創立百周年記念式典」挙行 『百年のあゆみ』発行	

となみ野高校 HP

衝立をして授業

Grand Designリーフレット

「私達にできる感染症対策」は つづく

新型コロナ感染症対策掲示

授業でタブレットを使用

九十周年記念式典

記念式典

2013年(平成25年)10月11日(金)創立九十周年記念式典が、本校講堂にて行われた。式典に先立ち「九十年のあゆみ」と題して、スライドで振り返る本校の歴史を上映した。



式辞(石野校長)



次第(表紙)



記念誌



校長は式辞で「学べる喜びと感謝する気持ちをもつ生徒、生徒の生活を支える家族、生徒の成長を願い学びを手助けする教職員、母校を愛してやまない同窓生、そして学校が地域の発展につながると信じて応援して下さる地域の方々、こうしたたくさんの方々を支えられ、九十年の歴史を刻んでいくことができました。1929年(昭和4年)に建てられたこの講堂はその移り変わりの様子をずっと見続けてきました。今日は、その九十年の節目をここにおいてになる全員で祝いたいと思います。(一部抜粋)」と述べた。



喜びの言葉(生徒会長 千保亜紀子さん)

記念公演 ピアノ演奏 中沖 いくこ氏

〈プロフィール〉

富山市出身
愛知県立芸術大学器楽科ピアノ専攻卒業
ドイツ・メンデルスゾーン・ライプツィヒ音楽大学首席卒業

〈曲目〉

ソナタ K. 380 ホ長調(スカルラッティ)
アヴェ・マリア(平均律第一巻ハ長調プレリュード)(バッハ)
サラバンド(フランス組曲第3番より)(バッハ)
トルコ行進曲(モーツァルト)
子犬のワルツ(ショパン)
ノクターンOp.9-2(ショパン)
スケルツォ第2番(ショパン)
ゴリウォーグのケーキウォーク(ドビュッシー)
沈める寺(ドビュッシー)



海外研修旅行

(平成27年度まで海外修学旅行)

韓国

平成25年度~平成26年度



伝統舞踊体験 コリアハウスにて
2013年(平成25年)

海外研修旅行は砺波女子高校から続いている行事である。この行事は、2年次生が文化や法律の違いを感じ、他の国や世界に目を向けるきっかけとなるよい機会となっている。

平成27年度以降、社会情勢から訪問国を韓国から台湾へと変更した。また、平成28年度には、全生徒に旅の学習機会を与えようと海外班と県内班の2班に分かれる「文化体験学習」を実施した。

令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症流行のため、研修旅行は中止となったが、令和4年度は国内旅行として研修旅行が復活した。

台湾

平成27年度~令和元年度

旅の日程(平成28年度)

- 1日目 富山空港 → 台湾桃園国際空港
→ 龍山寺 → 台北101
- 2日目 三峡老街・祖師廟 → 忠烈祠
→ 十份 → 九份 → 士林夜市
- 3日目 中正紀年堂 出発
台北市内班別行動
- 4日目 4:30 起床
桃園国際空港 → 富山空港



龍山寺にて2016年(平成28年)

大阪・京都

令和4年度



海遊館にて2022年(令和4年)

〈この10年間の実施状況〉

回	年度		期間			泊日	訪問地	
	西暦	和暦	月	日	曜			
19	2022	令和4	9	13	火	~ 15	木 2泊3日	大阪・京都
-	2021	令和3	新型コロナウイルス感染症の影響で中止					
-	2020	令和2	新型コロナウイルス感染症の影響で中止					
18	2019	令和元	9	9	月	~ 12	木 3泊4日	台湾
17	2018	平成30	7	23	月	~ 26	木 3泊4日	台湾
16	2017	平成29	7	24	月	~ 27	木 3泊4日	台湾
15	2016	平成28	9	16	金		日帰り	県内
15	2016	平成28	9	15	木	~ 18	日 3泊4日	台湾
14	2015	平成27	9	14	月	~ 17	木 3泊4日	台湾
13	2014	平成26	9	16	火	~ 19	金 3泊4日	大韓民国
12	2013	平成25	9	24	火	~ 27	金 3泊4日	大韓民国

学校行事(前期)

4月	始業式 入学式
5月	チャレンジデーI(遠足) 中間考査
6月	チャレンジデーII(体育大会) 県高等学校定時制通信制体育大会 県高等学校定時制通信制陸上競技大会
7月	期末考査
8月	全国高等学校定時制通信制体育大会 全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
9月	地域清掃奉仕活動 研修旅行 卒業式 終業式



入学式



チャレンジデーI(遠足)



対面式



チャレンジデーII(体育大会)



全国定通陸上



地域清掃



生徒会誌

(平成25年度~平成29年度)



学校行事(後期)

10月	入学式 始業式 北信越高等学校定時制通信制総合体育大会 県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会
11月	となみキャンパスフェスティバル 中間考査
12月	チャレンジデーIII(球技大会)
1月	期末考査
2月	インターンシップ
3月	卒業式 終業式



生徒生活体験発表大会



となみキャンパスフェスティバル



チャレンジデーIII(球技大会)



卒業式



インターンシップ



生徒会誌

(平成30年度~令和4年度)



インクルーシブ教育

人間の多様性を尊重する共生社会の実現に向け、一人一人を大切にする教育、特別支援教育を推進した。

◆インクルーシブ教育システム構築モデル事業

2015(平成27)年度、文部科学省委託「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」の指定を受けた。インクルーシブ教育の理念に則り、障害のある者となない者が可能な限り同じ場で共に学ぶ仕組みと、個別の教育的ニーズに沿った指導・支援の在り方について実践研究を行った。

教員研修



「インクルーシブ教育の視点で考える授業の工夫」
「特別支援教育における合理的配慮」
「発達障害のある生徒の読み書きの支援」

生徒研修



共生社会講座
「差別する心とは」

◆インクルーシブ教育システムの構築

モデル事業の成果を受けて、特別支援教育体制を整備した。2018(平成30)年度には通級による指導が導入され、一層の充実が図られた。

教員研修



「特別な支援を必要とする生徒を含む学習指導の在り方について」



授業のユニバーサルデザイン化(各教科の実践報告)

共生社会講座



「私の目はお願い上手」

<通級による指導>

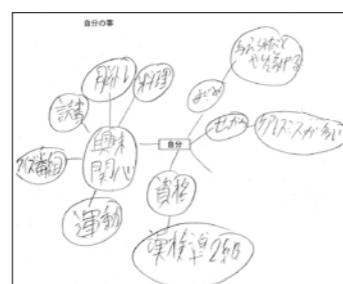
生徒がなりたいたい自分に近づくために、一人一人の課題に沿った学習等を行っている。



先生によるロールプレイ動画を使ってSST(ソーシャルスキルトレーニング)



iPadで就職・進学時の自己紹介文作成



こころマップで思考や情報を整理

心と体の健康講座 「コミュニケーション講座」



生徒生活体験発表大会

富山県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会で、平成25年には武部志穂さん、平成27年には島樋夏美さん、平成28年には山本実奈さんが富山県大会で優勝し、東京で開催された全国大会(六本木ヒルズハリウッドホール)に出場するという快挙を果たした。

平成25年度 第61回全国大会 読売新聞社賞 総合福祉科 3年次 武部 志穂

『伝えたい』

「人と関わることが怖い」
過去の私は内気で臆病でした。だから、学校でもほとんど人と話をしませんでした。そんな私を心配したのでしょうか。小学校四年生の時、母がある習い事を勧めてきました。それは、なんと『ミュージカル』でした。(発表原稿より抜粋)



平成27年度 第63回全国大会 奨励賞 普通科I部 2年次 島樋 夏美



『広がれ、私、無限大』

私は今、毎日が充実しています。生徒会、委員会、アルバイトに高校入学から始めたボーリング競技。そして、大切な人たち。友だち、家族、先輩、アルバイト先の方。穏やかなやさしい関係に包まれています。

(発表原稿より抜粋)

平成28年度 第64回全国大会 厚生労働省職業能力開発局長賞 総合福祉科 3年次 山本 実奈

『一緒に歌って笑える介護職員になりたい』

「明るくてクヨクヨしないね」
私は、つらく悲しい時でも、いつもニコニコしてしまう顔を持って生まれてしまったようで……、これがいい所らしいです。でも、ほんとは不安にも、泣きたくも、なれるんですけどね。

(発表原稿より抜粋)



生徒実行委員

平成25年度からは、生徒が実行委員として運営に携わり、大会を進行している。この経験は、生徒にとって自信となり、その積み重ねが人間的な成長へとつながっていくと思われる。



部活動の記録 (平成25年度～令和4年度)

数々の部活動が、全国大会への出場や出品作品の入賞といった輝かしい記録を残している。



全国高等学校
定時制通信制体育大会
第48回陸上競技大会
2013年(平成25年)
女子800m
第4位 竹部 明日花(左から2番目)

第57回高岡・砺波地区高等学校
演劇発表大会 2014年(平成26年)
優秀賞 演劇部



全国高等学校
定時制通信制体育大会
第50回陸上競技大会
2015年(平成27年)
女子円盤投
第6位 青島 安香



全国高等学校
定時制通信制体育大会
第52回陸上競技大会
2017年(平成29年)
男子400mH
第4位 樋掛 幸浩



全国高等学校
定時制通信制体育大会
第57回陸上競技大会
2022年(令和4年)
女子200m
第7位 小西 菜摘
(左から2番目・手前)



第40回富山県青少年美術展
デザイン部門
2015年(平成27年)
銅賞 北清 真菜
「溢れる」



第19回岐阜女子大学
全国書道展
2020年(令和2年)
特賞 荒木 優花
「臨蘭亭序」



第45回富山県青少年美術展
デザイン部門
2020年(令和2年)
銀賞 柴垣 貴大
「Wish」

ボランティア活動

本校では、保育園、公民館、老人施設、病院、寺院、農園、学校林や津沢地区において、催し物の補助や清掃のボランティアを行っている。令和2年度から令和4年度までの3年間は、新型コロナウイルス感染症のため活動の多くが中止となった。



全校生徒による地域清掃 (9月実施) 2001年～



ボランティア大作戦 (9月実施) 2004年～



学校林下草刈り・植樹 (5月下旬実施) 2012年～2020年



小矢部市障害者スポーツ大会 (7月実施)



となみ野高校バス待合所の修復 2015年7月

学校家庭クラブ活動

家庭クラブでは、「となみ野健口体操」(嚙下体操)や「とろろん料理」(嚙下しやすい料理)を考え、教室を開くなどして普及に努めた。また、総合福祉科生徒による「となみ野笑劇団」を立ち上げて施設訪問を行い、高齢者への各種啓発運動に取り組んだ。



学校家庭クラブ活動の4つの基本精神

- 「創造」常に新しいものを創造し飛躍しようとする意欲をもつこと
- 「勤労」労を惜まず、体を動かして実践すること
- 「愛情」優しくあたたかい気持ちをもってものごとにあたること
- 「奉仕」他人への思いやりの心をもって尽すこと



平成27年 校内となみ野とろろん料理教室



平成28年 いこいの館交流活動(出張手浴)



平成28年 となみ野笑劇団(福光山田公民館公演)



平成29年 いこいの館交流活動(とろろん料理教室)



令和元年 商品開発・販売活



令和2年 地域産業 施設見学

10年間の進路状況

進路状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4年制大	4	5	1	0	3	2	1	2	2	3
短期大学	4	4	4	2	4	4	5	3	3	3
専門学校	11	6	10	8	7	3	8	5	12	5
就職	35	18	17	16	8	24	15	7	11	15
その他	0	6	4	0	1	4	0	0	0	1
卒業者数	54	39	36	26	23	36	29	17	28	27

主な進学先

- 大 学 金沢大学、高岡法科大学、富山国際大学、北陸大学、北陸学院大学、福井医療大学、東京農業大学、酪農学園大学、創価大学、京都芸術大学ほか
- 短期大学 富山短期大学、富山福祉短期大学、金沢学院短期大学、北陸学院短期大学部、金沢星稜大学女子短期大学部、高山自動車短期大学、平成医療短期大学ほか
- 専門学校 富山情報ビジネス専門学校、富山大原簿記公務員医療専門学校、富山リハビリテーション医療福祉大学校、富山県理容美容専門学校、金沢医療技術専門学校、専門学校ファースト学園金沢校、大原簿記法律観光専門学校金沢校、雄峰高校専攻科ほか

主な就職先

- 砺波地区 トナミ運輸、三喜有、リクシル、三協立山、新越部品、ST物流、福野自工、梅本建設工業、清水重建、スギタニ、泉洋化工、サンズコーポレーション、富士レース産業、富山住機、サンジェニックス、コメリ、多田自動車工業など
- 地区外 BBSジャパン、パール美容室、フローリア、NSK富山、クマキ、アルビス、ホテルアルファーワン、アパホテル、自衛隊など
- 介護職 ニチイ学館、清楽会、福寿会、城端敬寿会、北陸福祉会など



「自分の気持ちと向き合うこと」

平成27年卒 山本 圭佑さん

となみ野高校を卒業して約8年。私は現在、高岡市で弁護士として働いています。私が弁護士になることができたのは、となみ野高校で自分の気持ちに向き合い、勉学に励んだことが大きく関係しています。

私は中学校時代不登校でした。中学校で良い成績を残そうと張り詰めすぎ、朝起きられなくなりました。卒業まで満身に通学できず、全日制高校への進学を諦めざるを得ませんでした。当時は悔しい思いでいっぱいでした。「高校で巻き返したい。」この一心で、私はとなみ野高校で勉強に打ち込みました。先生方は、私の思いを汲み、毎日のように受験指導をしてくださいました。その結果、金沢大学に合格できました。その後も、「巻き返したい」という気持ちから勉強を続け、司法試験に合格できました。

となみ野高校のみなさんの中には、進路選択に不安を感じ、自分の気持ちが分からないと悩んでいる方もいらっしゃると思います。そのときは、先生方に相談してみるのもよいと思います。私は、「巻き返したい」という気持ちだけは持って入学しましたが、何をすればそれが実現するのか、具体的なことは何も考えていませんでした。しかし、先生方に何度も相談することで、自分の気持ちと向き合い、進路を決めることができました。

生徒のみなさんがそれぞれ自身の気持ちに沿って進路を選び、実現できることを心より応援しております。

卒業生の活躍

砺波野の会（同窓会）（平成25年度～令和4年度）

歴代同窓会長

砺波高等女学校、津沢高等学校、砺波女子高等学校、となみ野高等学校同窓会をあわせて「砺波野の会」と称し、会員相互の親睦を図りながら、母校の発展を願い活動している。

平成26年8月に8代大島会長から9代中本会長となる。その後、令和3年9月には10代上田会長となり現在に至る。評議員は、平成27年度にそれまでの支部制から、卒業回制となった。

初代	石黒阿や子	(砺高女1回)
2代	辻美子	(砺高女2回)
3代	牧田みさを	(砺高女4回)
4代	吉村田鶴	(砺高女6回)
5代	中嶋美智子	(砺高女15回)
6代	蒲田千鶴子	(砺高女18回)
7代	橋本良太	(津高3回)
8代	大島正尚	(津高6回)
9代	中本敦子	(砺高女12回)
10代	上田良子	(砺高女21回)



同窓会入会式（令和5年3月1日）



山本哲也先生（となみ野高校校歌作詞）の記念講演（平成30年）



ホームカミングデー（平成30年）

3月に卒業した生徒をキャンパスフェスティバルの日に招き、ミニ同窓会を行った。中本会長より挨拶があり、卒業生たちが和やかに歓談した。



Vis-à-visコンサート



令和4年度砺波野の会総会終了後の記念撮影（令和4年9月24日）

総会は新型コロナウイルス感染症のため令和2年度、3年度は書面審議となり、令和4年度は3年ぶりの開催となった。開催時期が9月に変更されて初めて開催された総会は、旧職員や砺高女卒業の方も出席され、互いに再会を喜び合い、笑顔が絶えない総会となった。総会終了後には、合唱グループ（Vis-à-vis）のコンサートが開かれた。

資料編

生徒生活体験発表大会の記録
(平成25年度～令和4年度)

歴代生徒会長
(平成25年度～令和4年度)

歴代家庭クラブ会長
(平成25年度～令和4年度)

栄光の記録
(※優勝または、特記すべき記録のみ記載)

沿革

歴代校長

卒業生徒数の推移

校地・校舎平面図

資料編

生徒生活体験発表大会の記録（平成25年度～令和4年度）

〈出場者・県大会成績〉

年度	生徒名	科・年次	題	県大会成績	備考
平成25年度	武部 志穂	総福Ⅰ部・3年	伝えたい	会長賞 1位	教育委員会賞
	山本 圭佑	普通Ⅱ部・2年	今までの自分 これからの自分	会長賞 3位	富山労働局長賞
平成26年度	三浦幸之助	総福Ⅰ部・2年	自然体でいこう	会長賞 2位	富山県議会議長賞
	池田 祐太	普通Ⅱ部・4年	自虐私観	奨励賞	
平成27年度	島樋 夏美	普通Ⅰ部・2年	広がれ、私、無限大	会長賞 1位	教育委員会賞
	吉水 綾音	普通Ⅰ部・3年	私は私のままで	会長賞 2位	富山県議会議長賞
平成28年度	山本 実奈	総福Ⅰ部・3年	一緒に歌って笑える介護職員になりたい	会長賞 1位	教育委員会賞
	亀島茉莉花	普通Ⅱ部・2年	己が己の道を歩む	奨励賞	
平成29年度	中井妃菜多	普通Ⅰ部・3年	「ひなた」で生きるために	奨励賞	
	相羽 美聖	普通Ⅰ部・2年	未完成	奨励賞	
平成30年度	柳丸 真美	総福Ⅰ部・3年	私、書道ガール	奨励賞	
	稲守 芹佳	総福Ⅰ部・2年	行動で開く挑戦の扉	奨励賞	
令和元年度	廣田 弥菜	普通Ⅰ部・3年	過去から未来へ	努力賞	
	高越 由佳	普通Ⅰ部・2年	わたしのピフォーアフター	努力賞	
令和2年度	佐々木一颯	普通Ⅱ部・3年	進めるだけ進む	努力賞	
	高ノ山 光	普通Ⅰ部・2年	私を変えた場所	奨励賞	
令和3年度	奥野 雅之	総福Ⅰ部・3年	信頼される介護士を目指して	奨励賞	
	渡邊 駿聖	普通Ⅰ部・2年	今を生きる	努力賞	
令和4年度	高越 由佳	普通Ⅰ部・4年	トンネルを抜けて 未来へ	奨励賞	

〈全国大会出場の子生〉

年度	生徒名	科・年次	題	全国大会成績
平成25年度	武部 志穂	総福Ⅰ部・3年	伝えたい	読売新聞社賞
平成27年度	島樋 夏美	普通Ⅰ部・2年	広がれ、私、無限大	奨励賞
平成28年度	山本 実奈	総福Ⅰ部・3年	一緒に歌って笑える介護職員になりたい	厚生労働省職業能力開発局長賞

歴代生徒会長（平成25年度～令和4年度）

年度	前期	生徒名	年度	前期	生徒名
平成25年度	前期	千保亜紀子	平成30年度	前期	當田 捷人
	後期	山本 圭佑		後期	稲守 芹佳
平成26年度	前期	北村 真人	令和元年度	前期	大野 誠司
	後期	道江 諄志		後期	高田 瑛治
平成27年度	前期	穴倉 愛美	令和2年度	前期	神谷 桜和
	後期	瀬戸 万生		後期	梅基 純成
平成28年度	前期	島樋 夏美	令和3年度	前期	江田 光輝
	後期	宮田 快斗		後期	江波 春輝
平成29年度	前期	中川 真優	令和4年度	前期	松原 飛月
	後期	島 有紀		後期	松岡 大翔

歴代家庭クラブ 会長（平成25年度～令和4年度）

年度	生徒名	年度	生徒名
平成25年度	山村 実優	平成30年度	東 琉那
平成26年度	村岡 佑香	令和元年度	林 朋香
平成27年度	青島 安香	令和2年度	梶井 夕衣
平成28年度	清村 綾乃	令和3年度	藤永 時生
平成29年度	小西 花奈	令和4年度	中島 菜緒

栄光の記録（※優勝または、特記すべき記録のみ記載）

年度	富山県定時制通信制体育大会	富山県定時制通信制陸上競技対校選手権大会	その他
平成25年度	バスケットボール 女子 卓球 女子個人（藤森） 柔道 男子団体 男子個人軽量級（高田） 男子個人中量級（西東）	女子 800m（竹部） 砲丸投げ（大野） 女子総合	全国高等学校定時制通信制体育大会第48回陸上競技大会 女子 800m 4位入賞（竹部） 第61回北信越高等学校定時制・通信制体育大会柔道競技 男子個人 軽量級 優勝（高田） 第61回北信越高等学校定時制・通信制体育大会ソフトテニス競技 女子個人 優勝（吉田・向田） 第61回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 読売新聞社賞（武部） 第51回小矢部市美術展 絵画部門 奨励賞（杉田）
	ソフトテニス 男子団体 女子団体		
平成26年度	バスケットボール 女子 柔道 男子個人65kg級（高田） ソフトテニス 女子団体 女子個人（古瀬・山田）	女子 800m（竹部） 円盤投げ（青島）	全国高等学校定時制通信制体育大会第45回柔道競技 男子個人 65kg級 ベスト8（高田） 第62回北信越高等学校定時制・通信制体育大会卓球競技 女子個人 3位（藤森） 第62回北信越高等学校定時制・通信制体育大会ソフトテニス競技 女子団体 2位 女子個人 3位（山田・古瀬） 第62回北信越高等学校定時制・通信制体育大会柔道競技 男子個人 65kg級 3位（高田） 第57回高岡・砺波地区高等学校演劇発表大会 優秀賞
	卓球 女子団体 柔道 男子個人65kg級（高田） ソフトテニス 男子個人（早苗・宮丸）	男子 三段跳（高熊） 女子 800m（竹部）	全国高等学校定時制通信制体育大会第46回柔道競技 男子個人 65kg級 ベスト16（高田） 全国高等学校定時制通信制体育大会第50回陸上競技大会 女子円盤投げ 6位入賞（青島） 第63回北信越高等学校定時制・通信制体育大会柔道競技 男子個人 65kg級 優勝（高田） 第63回北信越高等学校定時制・通信制体育大会ソフトテニス競技 女子個人 優勝（古瀬・山田） 第63回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 奨励賞（島樋） 第40回富山県青少年美術展 デザイン部門 銅賞（北清） 第14回岐阜女子大学全国書道展 特賞（北清）
平成27年度	卓球 女子団体 柔道 男子個人65kg級（高田） ソフトテニス 男子個人（早苗・宮丸）	男子 三段跳（高熊） 女子 800m（竹部）	全国高等学校定時制通信制体育大会第46回柔道競技 男子個人 65kg級 ベスト16（高田） 全国高等学校定時制通信制体育大会第50回陸上競技大会 女子円盤投げ 6位入賞（青島） 第63回北信越高等学校定時制・通信制体育大会柔道競技 男子個人 65kg級 優勝（高田） 第63回北信越高等学校定時制・通信制体育大会ソフトテニス競技 女子個人 優勝（古瀬・山田） 第63回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 奨励賞（島樋） 第40回富山県青少年美術展 デザイン部門 銅賞（北清） 第14回岐阜女子大学全国書道展 特賞（北清）
	ソフトテニス 女子個人（古瀬・山田）	男子 三段跳（齊藤） 女子 100mH（木下）	第64回北信越高等学校定時制・通信制体育大会ソフトテニス競技 女子個人 優勝（古瀬・山田） 第64回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会 厚生労働省職業能力開発局長賞（山本） 第15回岐阜女子大学全国書道展 奨励賞（樋掛）、特賞（中村）
平成29年度	バドミントン 女子団体 女子個人（今井）	男子 5000m（井口） 400mH（樋掛） 3000mSC（當田） 女子 100mH（木下）	全国高等学校定時制通信制体育大会第19回バドミントン大会 女子個人 ベスト16（今井） 全国高等学校定時制通信制体育大会第52回陸上競技大会 男子 400mH 4位入賞（樋掛） 第64回北信越高等学校定時制・通信制体育大会バドミントン競技 女子個人 優勝（今井） 第42回富山県青少年美術展 デザイン部門 銅賞（吉田） 第16回岐阜女子大学全国書道展 特賞（小林、佐々木）
		男子 1500m（井口） 5000m（井口） 3000mSC（當田） 走幅跳（小泉）	
令和元年度	卓球 女子団体	男子 砲丸投（寺井） 女子 100m（風間） 走幅跳（神谷）	第21回富山県高等学校英語プレゼンテーションコンテスト スピーチ部門 奨励賞（内馬場） 第18回岐阜女子大学全国書道展 特賞（地守）
令和2年度	県大会、全国大会、北信越大会はコロナ禍のため実施されず		第45回富山県青少年美術展 デザイン部門 銀賞（柴垣） 写真部門 銅賞（鍋島） 第32回富山県高等学校文化祭 美術・工芸部門 奨励賞（柴垣） 第19回岐阜女子大学全国書道展 特賞（荒木）
	卓球 女子個人（倉田） ソフトテニス 女子団体 女子個人（齊藤、影近）	女子 100m（小西）	第20回岐阜女子大学全国書道展 特賞（佐々木） 美の祭典 越中アートフェスタ2021 入選（佐々木、渡邊、松岡） 第17回南砺市美術展 書部門 ほっと・アート賞（松原）
令和3年度	ソフトテニス 男子個人（南部、高田） 女子団体	男子 100m（今井） 1500m（山田） 4×400mR（柴垣、今井、山田、廣川） 女子 100m（小西） 200m（小西）	全国高等学校定時制通信制体育大会第57回陸上競技大会 女子 200m 7位入賞（小西） 第21回岐阜女子大学全国書道展 特賞（佐々木、宮脇） 美の祭典 越中アートフェスタ2022 入選（松岡） 第18回南砺市美術展 書部門 ほっと・アート賞（渡邊、佐々木）

資料編

沿革

西暦	和暦	月	出来事
1923	大正 12	4	富山県立砺波高等女子学校開校
1924	大正 13	10	本館ならびに雨天体操場竣工
1928	昭和 3	12	寄宿舎竣工
1929	昭和 4	9	講堂竣工
		11	正門ならびに入口橋竣工
1933	昭和 8	6	創立 10 周年記念式典挙行・プール竣工
1946	昭和 21	4	研究科付設
1947	昭和 22	4	専攻科設置ならびに学制改革による新制中学校併設
1948	昭和 23	4	学制改革により富山県立砺波女子高等学校と改称
		9	県立高等学校普通科の統廃合ならびに学区制が実施され、男女共学の富山県立津沢高等学校および定時制水島分校設置
1950	昭和 25	4	全日制家庭課程設置
1951	昭和 26	4	定時制家庭課程（昼間）の設置
1953	昭和 28	2	本校の男女共学制廃止の前提として、女子のみ募集
		3	定時制水島分校廃校
		11	創立 30 周年記念式典挙行
1955	昭和 30	4	富山県立砺波女子高等学校と再び改称
1957	昭和 32	3	茶室竣工
1958	昭和 33	4	全日制被服課程の設置
1959	昭和 34	9	富山県立砺波女子高等学校校歌制定
1960	昭和 35	10	加藤長作氏の寄付により、礪中町字平桜地内に学校林を設置
		12	本校寄宿舎新築敷地として礪中町より土地 1,676m ² 寄付
1961	昭和 36	3	定時制家庭課程募集停止
		9	寄宿舎第 1 期工事竣工
1962	昭和 37	11	体育館竣工・体育部室移転改装
		12	創立 40 周年、定時制 10 周年記念式典ならびに体育館、寄宿舎第 1 期工事竣工式挙行
1963	昭和 38	4	家庭課程、被服課程を家政科と改称
1965	昭和 40	3	寄宿舎第 2 期工事竣工
1967	昭和 42	3	音楽室竣工
1969	昭和 44	4	家庭科学科設置（1 学級）
1970	昭和 45	9	運動場取付橋を改修
1971	昭和 46	3	運動場整備工事完成
1972	昭和 47	3	校舎第 1 期（後館）工事竣工
		4	家庭科学科募集停止、普通科 1 学級増設
1973	昭和 48	3	校舎第 2 期（前館）工事竣工
		6	創立 50 周年記念式典挙行
		7	中庭造園（同窓会寄贈）
1974	昭和 49	3	校舎第 3 期（特別教室）工事竣工
		6	校舎改築落成式典挙行
1975	昭和 50	10	基盤整備工事に伴う換地により所在地の表示を小矢部市清水 95 番地に変更
1977	昭和 52	4	県緑化推進コンクール推進校として受賞
1978	昭和 53	10	富山県視聴覚教育研究大会会場校
1980	昭和 55	3	NHK 学校放送番組ならびに放送教育の実践研究校として受賞
1981	昭和 56	3	部室 2 室竣工
1982	昭和 57	4	文部省指定生徒指導研究校
		10	創立 60 周年記念式典挙行、トレーニングハウス竣工（251m ² ）、通学路拡張舗装
1984	昭和 59	3	市道拡張により所在地の表示を小矢部市清水 95 番地 1 に変更
		8	P T A 活動優秀実践校として全国表彰
1986	昭和 61	3	東門完成、地方教育費調査について成績優秀につき文部大臣表彰
1987	昭和 62	4	文部省指定教育課程（家庭科）研究校
		12	ブロンズ少女像（永原廣作）建立

西暦	和暦	月	出来事
1989	平成元	1	文部省指定教育課程（家庭科）研究成果発表会開催
1991	平成 3	3	運動場造成（グラウンド造成整備、テニスコート造成）工事完成
		12	弓道場竣工
1992	平成 4	8	校門完成、前庭整備
		10	創立 70 周年記念式典挙行
1993	平成 5	3	茶亭「清暉庵」額披露
		4	家庭科に福祉コース設置、新制服を制定
1994	平成 6	3	給水設備改修工事・講堂屋根葺替工事
1995	平成 7	3	部室竣工
		11	体育館竣工
1996	平成 8	4	家政科を生活福祉科と改称
		10	暖房設備改修工事竣工
1999	平成 11	10	富山県教育委員会より高校再編計画（第 1 段階）方針の発表 「平成 13 年度砺波女子高校を定時制単科制高校に県生涯学習カレッジ砺波地区センターを併設した新しいタイプの教育施設（仮称生涯学習高校）に再編」
		11	生涯学習高校（仮称）設立準備委員会（校内）第 1 回会議開催（砺波女子高校内に校内組織として設置） 以後、第 2 回（平成 11 年 11 月）～第 11 回（平成 12 年 1 月）会議開催
		12	生涯学習高校（仮称）開設プロジェクトチーム第 1 回部会連絡会議開催（県教委主催） 以後、第 2 回（平成 12 年 1 月）～第 6 回（平成 12 年 9 月）会議開催
2000	平成 12	3	富山県立砺波女子高等学校普通科募集停止
		4	県生涯学習カレッジ砺波地区センター開設準備開始
		10	富山県教育委員会より平成 13 年度生徒募集定員等の発表 普通科（昼間単科制 I 部）約 40 名 普通科（昼間単科制 II 部）約 40 名 専門学科（昼間単科制 I 部）約 40 名
2001	平成 13	12	新設校の校名及び専門学科名の決定（富山県議会） 校名 富山県立となみ野高等学校 専門学科名 総合福祉科
		1	富山県立となみ野高等学校設置
2001	平成 13	2	再編に伴う改修工事（地区センターサロン、学習室、男子トイレ等）の完成
		3	富山県立砺波女子高等学校生活福祉科募集停止 実習棟の改築竣工、コンピュータ室更新工事竣工
		4	富山県立となみ野高等学校開校、県生涯学習カレッジ砺波地区センター開設 富山県立となみ野高等学校第 1 回入学式
		11	砺波女子高校、となみ野高校、砺波地区センターが合同で第 1 回となみキャンパスフェスティバル開催
2002	平成 14	4	富山県立雄峰高等学校通信制課程の協力校となる
		9	富山県立となみ野高等学校第 1 回海外修学旅行実施（韓国）
		11	創立 80 周年記念式典挙行
2003	平成 15	3	富山県立となみ野高等学校第 1 回卒業式 富山県立砺波女子高等学校閉校式
		10	文部科学省認定 定時制・通信制ステップアップ事業研究校（～平成 18 年 3 月）
2007	平成 19	5	文部科学省認定 定時制・通信制チャレンジ事業研究校（～平成 21 年 3 月）
2009	平成 21	4	社会人が高校生と学ぶ「特別講座」をすべての教科で実施
2013	平成 25	4	社会人が高校生と学ぶ「特別講座」を「共学講座」に名称変更
		10	創立 90 周年記念式典挙行
2014	平成 26	8	校舎（後館—普通教室）耐震工事竣工
2015	平成 27	3	校舎（後館—特別教室）耐震工事竣工
		4	文部科学省「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」委託（～平成 28 年 3 月）
		10	体育館天井落下防止対策工事竣工
2018	平成 30	4	通級による指導開始
		12	学校ホームページ刷新
2020	令和 2	4	全普通教室にエアコン整備
2023	令和 5	10	創立百周年記念式典挙行

資料編

歴代校長



奥田 貞樹
1923-1927



安居瀧三郎
1927-1932



中川 秀正
1932-1934



中田 賢照
1934-1935



山本 栄
1935-1948



水木 與作
1948



土肥宇三郎
1948-1949



長田 芳郎
1949-1952



永森 文秀
1952-1954



斉藤 越郎
1954-1959



加登 八郎
1959-1960



木下 秀夫
1960-1964



西井幸次郎
1964-1967



石黒 大俊
1967-1970



吉田 一雄
1970-1971



松岡 正雄
1971-1973



丸山 次義
1973-1974



加藤 勲
1974-1976



重原 栄良
1976-1978



林 夫門
1978-1980



広橋 法胤
1980-1984



筆谷 和夫
1984-1986



丸山 洸
1986-1988



竹内 伸一
1988-1989



蔵 耕三
1989-1992



土田 政雄
1992-1994



殿山美喜夫
1994-1997



浜本 純雄
1997-1999



澤田 欣郎
1999-2002



高本 成一
2002-2004



向田 永真
2004-2007



渡辺 昇
2007-2009



沖 幸雄
2009-2012



佐倉 正樹
2012-2013



石野 昌一
2013-2015



中山 良一
2015-2018



中明 文男
2018-2020



林 和貴
2020-2023

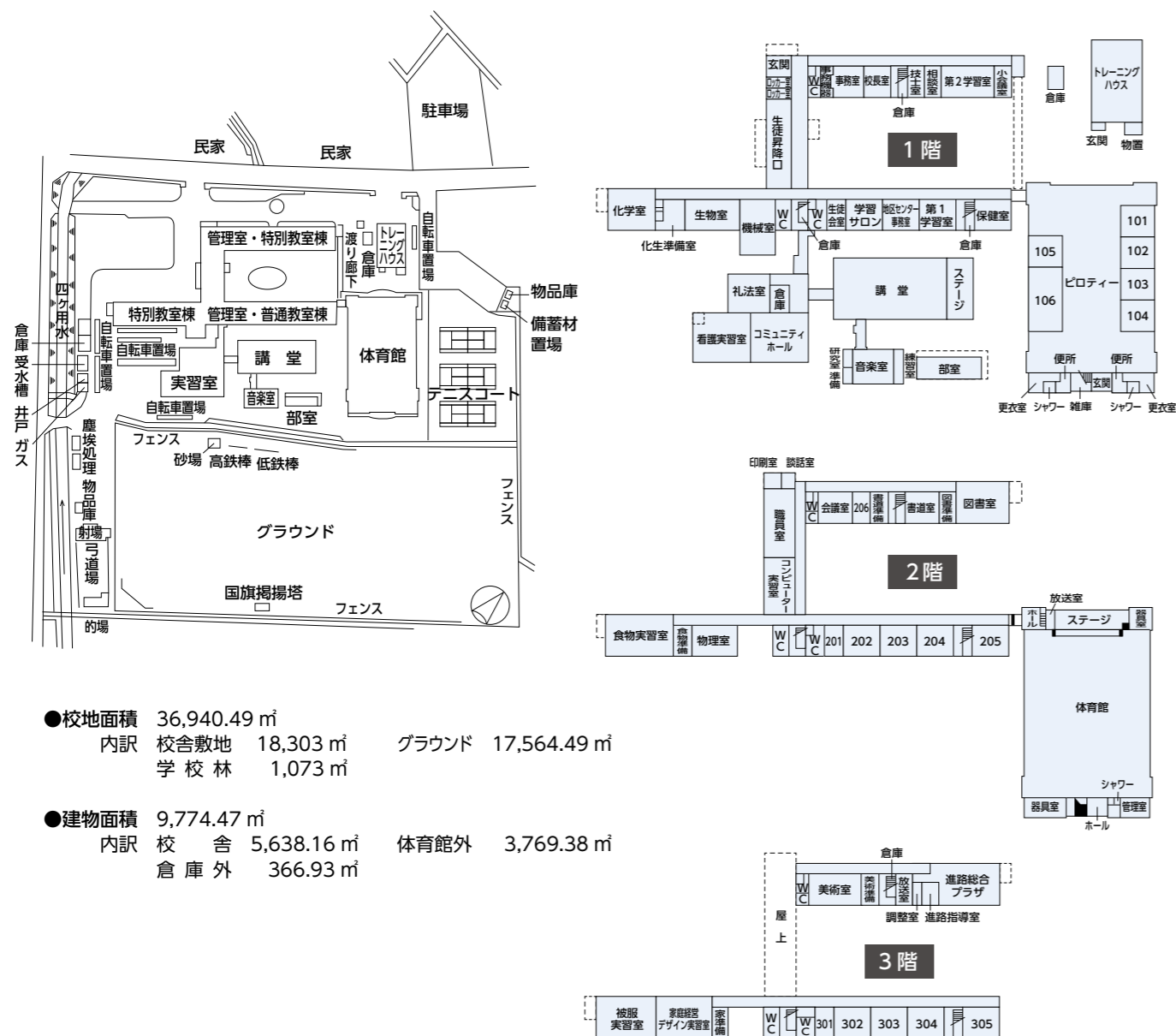


吉國 陽子
2023~

卒業生徒数の推移

砺波高等女学校		津沢高等学校		砺波女子高等学校		となみ野高等学校			
卒業回数(年)	卒業生徒数	卒業回数(年)	卒業生徒数	卒業回数(年)	卒業生徒数	卒業回数(年)	卒業生徒数		
1(昭和 2)	123	併中(昭和 24)	87	8(昭和 31)	196	32(昭和 55)	168	1(平成 15)3月	6
2(昭和 3)	137	1(昭和 24)	7	9(昭和 32)	196	33(昭和 56)	171	2(平成 15)9月	2
3(昭和 4)	126	2(昭和 25)	18	10(昭和 33)	189	34(昭和 57)	171	3(平成 16)3月	77
4(昭和 5)	117	3(昭和 26)	53	11(昭和 34)	203	35(昭和 58)	174	4(平成 16)9月	4
5(昭和 6)	124	4(昭和 27)	98	12(昭和 35)	244	36(昭和 59)	171	5(平成 17)3月	49
6(昭和 7)	99	5(昭和 28)	137	13(昭和 36)	243	37(昭和 60)	166	6(平成 17)9月	2
7(昭和 8)	91	6(昭和 29)	169	14(昭和 37)	244	38(昭和 61)	176	7(平成 18)3月	42
8(昭和 9)	61	7(昭和 30)	170	15(昭和 38)	248	39(昭和 62)	176	8(平成 18)9月	3
9(昭和 10)	58	合計	739	16(昭和 39)	219	40(昭和 63)	169	9(平成 19)3月	65
10(昭和 11)	68			17(昭和 40)	266	41(平成 元)	177	10(平成 19)9月	2
11(昭和 12)	81			18(昭和 41)	322	42(平成 2)	175	11(平成 20)3月	34
12(昭和 13)	77			19(昭和 42)	328	43(平成 3)	179	12(平成 21)3月	36
13(昭和 14)	96			20(昭和 43)	318	44(平成 4)	177	13(平成 22)3月	35
14(昭和 15)	95			21(昭和 44)	312	45(平成 5)	176	14(平成 23)3月	29
15(昭和 16)	93			22(昭和 45)	248	46(平成 6)	173	15(平成 23)9月	2
16(昭和 17)	100			23(昭和 46)	188	47(平成 7)	156	16(平成 24)3月	34
17(昭和 18)	94			24(昭和 47)	180	48(平成 8)	160	17(平成 25)3月	50
18(昭和 19)	100			25(昭和 48)	178	49(平成 9)	157	18(平成 26)3月	54
19(昭和 20)	156			26(昭和 49)	171	50(平成 10)	154	19(平成 27)3月	39
20(昭和 21)	156			27(昭和 50)	176	51(平成 11)	155	20(平成 28)3月	36
21(昭和 22)	180			28(昭和 51)	173	52(平成 12)	151	21(平成 29)3月	26
22(昭和 23)	176			29(昭和 52)	179	53(平成 13)	148	22(平成 30)3月	23
併中(昭和 23)	189			30(昭和 53)	171	54(平成 14)	148	23(平成 31)3月	36
専攻(昭和 23)	24			31(昭和 54)	174	55(平成 15)	73	24(令和 2)3月	29
合計	2,621	合計	173	合計	9,267	合計	787	25(令和 3)3月	17
								26(令和 4)3月	28
								27(令和 5)3月	27

校地・校舎平面図



- 校地面積 36,940.49 m²
 内訳 校舎敷地 18,303 m² グラウンド 17,564.49 m²
 学校林 1,073 m²
- 建物面積 9,774.47 m²
 内訳 校舎 5,638.16 m² 体育館外 3,769.38 m²
 倉庫外 366.93 m²



看護実習室



弓道場



コミュニティホール



講堂



体育館



進路総合プラザ



礼法室

積み重ねてきた伝統と歴史からさらなる

発見 挑戦 創造 へ



— 編集後記 —

このたび、創立百周年記念事業の一環として、記念誌「百年のあゆみ」を皆様にお届けできますことを、心からうれしく思います。

本校が大正12年4月に富山県立砺波高等女学校として創立されてから、今年で100年を迎えました。その間、時代の流れとともに学科改変だけでなく校名変更など幾多の変遷を経てきました。その歩みは決して単純なものではなく、社会や時代の変化と要請に対応しながら、その都度、学校関係者や同窓会の皆様が本校のあり方に最善を尽くしてこられたものです。編集にあたっては、多様な本校の歴史が見えるように工夫いたしました。

今回の記念誌の構成として、第I部「伝統と歴史」では砺波高等女学校から砺波女子高校までの約80年の歴史と学校生活、第II部「新しい時代とともに」ではとなみ野高校の最近の10年間を中心に、学校の動きや生徒たちの学び・活動・活躍を編集しました。

この100年間で本校は様々変化してきましたが、どの時代の生徒も自分の青春を精一杯謳歌し、ひたむきに生きてきた姿が写し出されています。写真等をご覧になりながら当時を振り返っていただけましたら幸いです。

最後になりましたが、多くの皆様のご協力により本誌を発行できましたことに対し、心より感謝申し上げます。

本校のさらなる発展を心から祈念して編集後記といたします。

「百年のあゆみ」

富山県立となみ野高等学校 百周年記念誌

令和5年9月発行

発行／富山県立となみ野高等学校

富山県小矢部市清水 95 番地 1 TEL 0766-61-2040

編集／富山県立となみ野高等学校 創立百周年記念誌編集委員会

印刷／株式会社チューエツ

富山県富山市上本町 3-16 TEL 076-495-1310

